



THE SUGGESTION

提 言

中小企業組合総合研究所機関紙

6月1日

第209号(2023年)

提言・約束事

1. 基本的には読者参加型の提言新聞とします。併せてニュース解説や話題を提供します。
2. 投稿の場合、社会規範に反するものは受け付けません。原稿掲載はスペース等の関係もあり編集者の判断にお任せ下さい。

発行所

一般社団法人 中小企業組合総合研究所

〒533-0032 大阪市東淀川区淡路3-6-31 協同会館アソシエ2F

電話 06-6328-5577 FAX 06-6328-5588

URL http://www.kumiaisouken.com/



「労働学校アソシエ」は、労働の尊厳を回復させることを目標に、2016年に開学。世界で進行しつつある「社会的経済」を広げる運動と連帯して、「社会との共生」「自立した地域社会の強化」「働き活する場としての協同組合的社会的育成」という3つの理念を深めることも大きな課題としている。日本でも、「仙台・羅須

労働を、単に生活水準の向上を実現する手段として見るのではなく、労働そのものに喜びを見出

自立・自覚した人材の養成をめざして 大阪労働学校・アソシエ2023年度開講 協同会館アソシエを拠点に鋭意活動中

5月10日、大阪労働学校・アソシエ(斉藤日出治 校長)は、2023年度はじめての対面による講座を開講した。大阪労働学校は昨年度から大阪本校会場を協同会館アソシエ(大阪市東淀川区)に移して活動を行っており、今年度はオンラインを利用した講座がすでに4月から始まっている。

「労働学校アソシエ」は、地人協会、東京の「変革のアンソエ」などの運動と

そうとして、1922(大正11)年に賀川豊彦を校長として設立された「大阪労働学校」があった。大阪の地に「大阪労働学校」の労働を喜びにする精神を継承することは、労働の尊厳が軽視されている

今期はじめての対面形式授業

今年度の講座としてはじめて対面形式で行なわれたこの日は、斉藤学長による「ものの見方・考え方講座」がオンラインも併用する形で行なわれた。当日の講座では、斉藤学長が先般発表した論文「関西生コンの労働運動弾圧の根源に潜むもの―企業主導型資本主義と生権力―」論文の詳細は4面参照)をテキストに、近代社会のありようと

現代において非常に重要な意味を持っている。いま求められている社会の将来の進路は、競争から共生、協同型への経済・産業・社会構造の転換である。

「労働学校アソシエ」は、国家に頼らず、大企業に依存せず、自立・自覚した社会人の連合を組織できる人材を養成すべく存在している。

見交換が行なわれた。息苦しい社会の中で

学長 斉藤日出治

労働運動だけでなく、今の日本の社会がすごく息苦しいような社会状況が蔓延しています。

その今の日本の社会の中に蔓延する息苦しさの感情とか、ヘイトスピーチに代表されるむき出しの憎悪感情という動きと、そういう社会的な雰囲気と、関生の労働運動への弾圧というのが深い所でつながっているのです。

特に関生の労働運動への刑事弾圧を支えているものに「関生は反社集団」



斉藤学長

というレッテル貼りがあります。これがまさにそういう憎悪の感情のつづれとていってもいいかと思うのです。そういう憎悪の感情が出てくる日本の

多彩な講座で人材育成を

従来からの「社会運動と社会教育講座」、「協同組合論講座」、「ものの見方・考え方講座①」、「ものの見方・考え方講座②」、「資本論読書会」の5つの講座に加えて、新規講座として「労働講座」「労働者協同組合講座」「労働者協同組合講座」などに加えられ、8月末まで多彩なプログラムが組まれている。

2023年度講座の紹介(決定分のみ)

●協同組合論講座(津田直則 講師)

・資本主義を超える体制論・文明論・変革論

・協同組合を発展させる「連帯システム」

・協同組合ESOPによる株式会社改革

・労働者協同組合への多様な道

●ものの見方・考え方講座①(斉藤学長)

・関西生コンの労働運動弾圧の根源に潜むもの―企業主導型資本主義と生権力

・加速する社会と資本主義の危機―ヘルムート・ローザ

・象徴の貧困と集団的個性の危機―ヘルナンド・ステイグレル

・速度の政治 ポール・ヴイリリオ

●ものの見方・考え方講座②(田畑稔 講師)

・なぜマルクス再読が不可欠か―マルクス『生活過程論』研究の問題意識

・過程論的アソシエーション論―マルクス『社会的生活過程』論の展開にむけて

・ヘーゲル『精神哲学』とマルクス『精神的な生活過程』の対比―『精神的な生活過程』論をどう展開するか

・『産業革命』と『情報・情報技術』革命―全体像を前景化させる努力こそ緊要

●社会運動と社会教育講座(奥村旅人 講師)

・『教育』とは何か―生涯学習思想からの再検討

・大阪労働学校校長 賀川豊彦の教育観

・京都労働学校校長 住谷悦治の教育観

・教育空間・〈知〉のあり方再考

●『資本論』読書会講座(斉藤学長)

『資本論』第1巻の第6編労働賃金の第19章より読み始める。原典の文意を解説すると同時に、現代の資本主義の動態と危機を『資本論』の読解を通してどのように認識することができるのか、についても議論を進める。

●『資本論』読書会講座(斉藤学長)

四季折々

梅雨

梅雨(ばいう)は中国から伝わった言葉でもともと別の漢字、黴雨(ばいう)に由来するという説があり、黴雨は発音が同じ(ばいう)の「梅雨」の字が当てられたらしく、現代中国語では梅雨は(メイユー)と発音されるそうです。

実際に梅雨の6月頃は梅の実が熟す頃で、中国で生まれた梅雨の言葉が日本に伝わったのは奈良時代とされ、平安時代の『和漢朗詠集』「わかろうえいしゅう」には梅雨と書かれた詩の一節も残っているそうです。

梅は古くから日本人に愛されてきた歴史があり、現代では花見といえは桜ですが、奈良時代の頃までは梅であり、貴族は梅の花を觀賞して楽しんだり、歌を詠んだりしていたらしく、日本では良い印象のある梅の字が入った梅雨という言葉が定着したと考えられています。さらに、日本では梅雨は(ばいう)の他につゆとも読み、「草木の葉や地面などについた水滴」を意味する露(つゆ)に由来する説や、この時期は熟した梅の実が地面に落ちて「潰れる」ことから潰ゆ(つゆ)に由来する説などがあるそうです。

梅雨の豆知識如何だろうか。たてしうか。この時期は、天候・気圧の急変により体調を崩しやすいので、健康管理に気を付けて過ごしましょう。

(稲葉 忍)

2023 第94回メーデー

総理、大臣、知事出席の豪華「労働者の祭典」
メーデーは「チグハグ感」に溢れていた

ジャーナリスト 平林 猛

日本最大のメーデー大会が開催された。「第94回メーデー中央大会」(連合)である。大会は2023年(令和5年)4月29日(土・祝)及び5月1日(月)、東京・代々木公園並びに日比谷公園で盛大に開催された。また、そのメーデーの中央大会に連携して日本全国津々浦々、二百数十カ所で開催され、多くの労働者たちが集結、「明日の勝利」、権利や義務を明確にし、誓いあった。今回、そのメーデーの全国中央集会の会場に足を踏み入れた。

厳戒態勢の「連合」のメーデー

4月29日(土・祝)、会 宿駅から約10分。何処が 場は新築されたJR原 改札口だか不明だが、人



ステージ前には10m以上のアンタッチャブルエリアが

の流れに身を任せ、押されるまま外に押し出された。そこは明治神宮の森。奥に大鳥居がそびえ、数十人の人達が熱い思いの「アピール」を書いたチラシを小脇に抱え、改札口から流れ出てくる労働者たちをターゲットに渡していた。

そのまま雑踏の中を歩いていると代々木公園のNHK側入り口に巨大なアーチが立っていた。目を凝らすとアーチには「メーデー中央会場」と書かれていた。「第94回メーデー中央大会」会場である。広場ではトルコ・シリア地震救援ブースをはじめ、アラブのケバブ売りから日本酒を売るブースまで、フードフェスティバルの感があり、中には着ぐるみ人形やバルーンアートの大道芸人までいて、まさに労働者の祭典の観があった。



車椅子エリアは工事現場のようにコーンで仕切られて身動きできず。しかも舞台真横で登壇者の顔も見えない

主役は「一体だれ」?

さてメイン会場入り口では、物々しい荷物チェック。小生は車椅子。案内人に声を掛けられ、車椅子専用の場所待機。その場所は舞台脇にいつらえられた人工芝に敷いてあるゴム版の上だ。

舞台前は、報道陣のエリア。新聞記者やカメラマンたち40〜50人が屯していた。舞台の周辺は、何人もの厳めしい顔つきのSPや警備員が緊張感を放ちながら立っている。

舞台から客席までは10メートル以上の空地があり、厳めしくロープで仕切られた異常な空間が広がっていた。その後ろが各労働組合のメーデー参加者のエリアだ。本末転倒、今日の主役はメーデー参加の組合員だ。だが、主催者「連合」は来賓への厳重な警備。奈良の駅前

で故安倍晋三元総理、それに和歌山の漁港で岸田文雄現総理が襲撃されて以来、過剰警備で襲われた事件を思い出した。

「東京都知事」。主催者の芳野友子・中央実行委員長は、「2023春季生活闘争において30年ぶりの高水準での賃金改善が行なわれた」とこ

「少し、舞台袖が騒がしくなると、SPが何人も黒い防弾カバンを持つ労働者たちの前に立ちほだかる。苦労な事だ。」

本日のプログラムが手渡された。内容が目瞭然。その刷り物には「メーデースローガン」が記されていた。「笑顔溢れる未来をめざし、力を合わせ、ともに進もう!」。

「連合」のメーデー式典の登壇者をプログラムから見てみる。「開会宣言」・杉浦賢次・連合東京会長／主催者挨拶・芳野友子・連合会長／来賓挨拶・岸田文雄・内閣総理大臣／来賓挨拶・加藤勝信・厚生労働大臣／来賓挨拶・小池百合子・



「連合」芳野会長

「世の中全体で『給料があがった』『生活が楽になった』と感じるためには、労働者の7割が働く中小企業で賃上げが行なわれなければならない。現在も交渉中の組合の皆さんには、最後の最後まで賃上げにこだわった交渉をお願いする」と述べ、全体を通して、高水準の賃上げに成功した成果をアピールする場となった。

小池百合子・東京都知事は、1200日のコロナ禍を皆と共に闘ったことに感謝を述べ、「コロナ禍の連合傘下のエッセンシャルワーカーの皆さま、多大な影響を受けた観光、医療、交通、飲食関連の皆さまと共に対応を進めてまいりました。また今年

は関東大震災100年にあたります。東京市長であつた後藤新平の『二人に人、三人に人』という名言があります。未来を切り拓く主役は人」と小池節は健在。会場をおおいに盛り上げた。

しかしながら、今回のメーデー会場、なぜSPをあそこまで貼り付け警備したのか。戦略があるはずだ。

岸田文雄・内閣総理大

臣をはじめ、労働問題の最高責任者である加藤勝信・厚生労働大臣。それに東京の代表責任者である小池百合子・東京都知事と権力者の揃い踏み。これだけ人事を揃えるのには、何か意図があるのか。

総理と言え労働者の賃金をも決定できる日本の最高権力者である。G7を前に襲撃されたら、政府もメーデーの主催「連合」も困る。それも組合連合会最大の組織「連合」に対して政府は何か政治的な配慮、気を使わなくてはならないのか。

岸田総理の登壇

登壇した岸田総理は新資本主義に関して力強く語った。

「私が進める新しい資本主義の最重要課題は、賃上げです。今年の春闘は、30年ぶりの賃上げ水準となっており、力強いうねりが生まれています。このうねりを地方へ、そして中小企業へ広げ、なるべく、全力を尽くしてまいります。」

先月15日には、連合芳野友子会長にも御参画いただいて、政労使の意見交換を行いました。賃



岸田総理

上げは、若い方々にとって、結婚、子供、子育ての希望をかなえるためにも、重要な課題となります。若い世代の所得向上に、子育て政策の範疇を超えて、大きな社会経済政策として取り組んでまいります。

総理就任以来、我が国は歴史的転換点にあり、これを乗り越える最良の道は、人への投資だと申し上げてきました。賃金が増え、子どもが増える、そんな社会を次の世代に引き継いでいきたいと考えております。

本日お集まりの皆様とともに、力強い賃上げを実現できるよう、共に取り組みましょう。私自身も、先頭に立って、取り組んでいくことをお誓い申し上げ、私からの



多くの参加者で埋まった代々木公園でのメーデー

SPは舞台前に、アンタッチャブル地帯を作っていたが、岸田総理の挨拶終了後に即刻解除。それを合図に後方に追いやられていたメーデー参加者は、どっと舞台前に流れ込んだ。

岸田総理はメーデー式典が終了すると、公務で空路アフリカに飛んだ。エジプト、ガーナ、ケニア、モザンビークを訪問、国際秩序の根底から揺らぐ中、各国首脳との間で議論を深め連帯を確認し、G7広島サミットにつなげる為と推測された。

重要なゲストを送り出した「連合」芳野友子会長のメーデーは終わった。御嬢さん芸は成功したのか。(3面に続く)

日比谷でのメーデー(全労協)

さて、メーデーは4月29日だけではない。本来の5月1日が本格的なメーデーの日である。第94回日比谷メーデー「HIBIYA 94 MAY DAY」(全労協)だ。

伝統的な日比谷公園のメーデーを採ってみる。会場は日比谷野外音楽堂。「懐かしい野音」。やはり、元気だった。「ロックの聖地」「フォークの殿堂」それに「労働運動の聖地」でもある。1923年(大正12年)に開設された日比谷公園大音楽堂(野音)は、関東大震災も逃れ今年100周年を迎える。



参加者の熱気にあふれた日比谷野音会場



多くの参加者が会場を埋め尽くした

「ジェンダー平等!均等待遇実現!なくせ貧困・差別、8時間働けば暮らせる社会を!」。

「福島原発事故を忘れない!原発ゼロ社会・復興の実現を!核兵器廃絶!」。

「反戦平和!9条改憲反対!大軍拡・増税反対!辺野古新基地建設阻止!岸田政権は退陣を!」。

日比谷メーデー次第

9時45分 オープニング宣言 本木寛(日比谷メーデー実行委員)。
9時50分 開会宣言 平賀雄次郎(中小民間労働組合連合会)。
9時55分 主催者挨拶 鎌田博(国労東京地本委員長)／来賓挨拶 福島みずほ(参議院議員)。

来賓の福島みずほ参議院議員は「アメリカの労働者が今から137年前に『8時間は労働に、8時間は休息に、そしてあと

8時間はわれわれの自由を求めて、ストライキで立ち上がった事をきっかけにメーデーが始まった。100年以上たっているのにまだ日本では実現されていない」と語った。また「決意表明・訴え」では、長谷川ロウエナさん(全統労組ビードア分会)が、コロナ禍での外国人労働者の首切りについて切々と訴えた。



福島氏(左から2番目)を先頭にデモ行進に出発

代々木でのメーデー(全労連)

さて、5月1日の代々木公園は「第94回中央メーデー(全労連)」会場。会場前の広場は、飲食ブースなど、署名活動する人々が列をなしていた。ここは日本共産党の一人舞台。二日前の「連合メーデー」とは警備体制が異なり、手荷物検査も無し。会場後方のインストレには映像カメラは二台。

日本共産党

志位和夫委員長挨拶

岸田首相は、4月29日の「連合メーデー」で、「30年ぶりの賃上げ水準」と自画自賛しました。しかし、大企業の賃上げは物価高騰で相殺され、多くの中小企業は、賃上げをしなくてもできない苦境に追い込まれているのが実態ではありませんか。大企業がため込んだ5千兆円もの内部留保を、賃上げに還元することが必要です。



志位委員長

岸田政権がやっていることは何ですか。財界に對して「賃上げ」を「お願い」することだけ。中小企業に對しては賃上げ支援の具体策は何一つない。反對に中小企業予算を減らしているではありませんか。



代々木会場にも多くの参加者が集った

皆さん。いま国会は、かつて経験したことのない重大事態となつています。60年を超える老朽原発を稼働させる「原発推進等五法案」、健康保険証を廃止してマイナカードを強要する「マイナンバー法改定案」、難民の命を危険にさらす「入管法改悪案」、軍需産業に血税をつぎ込む「軍需産業支援法案」が、衆議院で強行されました。5年間で43兆円の大軍拡の財源を捻出する「軍拡財源法案」の連休明けの採決が狙われています。

これらのどれもが、国の

進路を大きく左右する重大法案であるにもかかわらず、わずか一か月程度の審議期間で、公聴会も開かず、次から次へと強行する。国会と国民を愚弄する暴挙です。採決を強行した自民党、公明党、維新の会、国民民主党の「悪政4党連合」の暴挙に強く抗議するとともに、必ず廃案に追い込む決意を固めあおうではありませんか。

日本の労働組合の現状

さて、現在の日本の労働組合の現状を再考してみたい。

かつて日本の二大組合「日本労働組合総評議会」(「総評」と「全日本労働総同盟」(「同盟」)を1989年に合併、「日本労働組合総連合会」(「連合」)を組織化した。

こうしてみると巨大組織を細切れにしてみたが、最大の組合「連合」の数字が途轍もなくバカ抜けている。組合員数を見てみると「連合」が673万2000人、「全労連」が63万5000人、「全労協」11万8000人である。この数字的格差は如何ともしがたい。労働組合「連合」の一人舞台。これが判明した。

誰のためのメーデーなのか

今年の「労働者の祭典」メーデーを見て分かった事がある。なぜ、日本の巨大労働組合「連合」が岸田文雄政権に気を使うのか。

その裏付けとも思えるメーデーの賛同者や来賓、招待者、彼らに對するシークレットサービスや警備員の配置や行動を見て理解が出来た。つまり、今

写真撮影…
杉浦弘子(映画監督)

その反面、「連合メーデー」では岸田総理大臣を守る睨みをきかせたシークレットサービスのおびたらしい数。4年振りの人びとの解放感とは真逆に、異常ともいえる警備の厳しさが対照的であつた。

関西生コンの労働運動の弾圧と闘いから見えてきたこと

大阪労働学校・アソシエ学長 斉藤日出治



2020年から始まった検察・警察、資本による労働組合への権力弾圧では、「反社労組」という虚構を作り弾圧を正当化した。大阪労働学校・アソシエ学長の斉藤日出治氏は、この虚構が検察・警察、資本といった特定の機関の策動であるだけでなく、この国の市民社会の深部からたちあがってくる政治の力であること指摘し、この力とどう闘うのかについての提言を「日本の企業主導型資本主義と生権力―関西生コンの労働運動弾圧の根源にあるもの」という論文にまとめた。

わたしはこの拙論で何を問いたかったのか？

この国に生きる人々がこの暴力の集中砲火を受けている。関西生コン「反社労組」という憎悪の感情は、この労働運動がはらむ社会闘争としての性格を逆に浮き彫りにしているのではない。そして、深いところであつて、逆を言うと、関西生コンの労働運動は、そのような現在の日本の市民社会の深部から立ち上がった暴力に立ち向かう運動であり、それゆえに確かめるためである。

日本資本主義とはいかなる資本主義なのか？

資本主義とは資本と賃労働の階級関係によって組織されるシステムだと言われる。重要なことは、この階級関係という

組織され、メディアは広告・宣伝のみならず番組編成、ニュースにいたるまで企業が圧倒的なインフル

日本資本主義に對峙する

関西生コンの労働運動

日本資本主義がこのように企業へのゲモノによって組織されるシステムであるということは、この国には企業を超えた社会が著しく脆弱だ、ということの証しでもある。人権、市民権、生存権、社会保障、文化の享受、表現の自由、結社の組織化といったあらゆる次元で企業を超えて企業横断的な共通の規範が不在だ、ということである。

したがって、日本の労働運動が企業別に組織され、産業単位・業種単位の労働組合が育つてこなかったことは、労働運動や労働組合の歴史だけに還元することのできないこの国の資本主義のこのような組織化のあり方と密接にかかわっている。

関西生コンの労働運動が産別・業種別の組合であることはすでに周知の

エンサーになっている。

要するに、企業による社会の組織化の「ゲモノ」があらゆる社会領域に貫かれている。企業間の取引関係の組織化は、このような企業の主導による社会の全面的な組織化と共振することによって資本賃労働の関係の組織化を可能にしている。

することによって、この産

業の民主的な組織化という課題にも着手する。事業協同組合の組織化は、生コン産業とセメント産業および建設産業との産業間関係を変革する闘いであり、この関係におけるセメント価格、生コン価格に介入する闘いである。労働運動が生コン産業の企業経営者と協力して事業協同組合の組織化に取り組み、セメントの購入価格、生コンの販売価格を適正価格に設定する。つまり、労働運動が資

関西生コンの労働運動弾圧の根源にある暴力―生権力と人種主義

だがこのような産業次元での企業間取引関係に介入する労働運動は、企業主導によって成り立つ日本資本主義の仕組みを根底から転換する取り組みであるがゆえに、その取り組みが労働運動の域を超えた「犯罪行為」として摘発されることになる。

企業の生産過程を超えて、流通過程、消費過程、さらには社会のあらゆる領域を資本賃労働関係の組織化の過程に包摂する動きは、そこに固有なちからが作用する。ミシェルフーコーが「生権力」と呼んだものがそれである。労働消費、文化、生命の享受、快楽といった

本の生産過程のみならず流通過程に介入する闘いを拓く。そのことによって、企業主導で組織される日本資本主義の組織化過程に労働者の「ゲモノ」を介在させ、企業横断的な社会の共通規範（労働者の同一労働同一賃金の原則、共通の労働条件、適正な製品価格の設定など）をうちたてることによって、企業主導型資本主義の組織化を切り崩す闘いの地平を切り開いたのである。

わたしたちの闘いの地平

わたしたちの闘いは、しだがって憲法が保障している労働三権（団結権、団体交渉権、争議権）が警察・検察・裁判所によって踏みこじられたことに対して労働組合の正統な権利回復を追求する闘いであると同時に、そのような暴力の根源にあるもの、すなわち日本社会のあらゆる次元において作用している生権力が発動する人種主義の暴力に抗して、そのような暴力を湧出させている市民社会を自己変革する闘いであること。企業が主導して組織する資本主義の深部において作動する生権力と人種主義の暴力に抗しつつ、資本という他者に代わって、われわれの協働の生命過程とともに自己組

よって保証された運動である。その運動に刑事罰を科し、犯罪行為に仕立て上げるばかりでなく、やくざのような「反社集団」というステイグマ（負の刻印）を押すからはいったいどこからたちあがってくるのだろうか。そして、日本の企業主導型資本主義がはらむ権力作用（生権力）が発動する人種主義「レイシズム」の暴力にほかならない。

◆

※なお、論文の全文をお読みいただく場合には、ウェブサイト上で「近畿大学学術情報リポジトリ」にアクセスして、「斉藤日出治」と入力するか、左記のQRコードを読み取ってダウンロードしてください。



地域アソシエーションの芽(50)

京都大学名誉教授
国際経済労働研究所所長

本 山 美 彦

株価資本主義を克服する途(20)

協同労働組織を支える

ブロックチェーン

労働者協同組合を立ち上げて、早晩、資金繰りで苦しくなることは目に見えている。この種の組織が、政府や自治体、あるいは特定の慈善団体の下請けにならずに、自主独立性を維持することは非常に難しい。

しかし、そうした資金繰りの隘路を打破できる可能性を大きく持つているのが、ブロックチェーンの

知ることができるので、ブロックチェーンは、偽造できないような形で管理できる技術となる。

ブロックチェーンには、大きく分けて4つの安全弁がある。

第1の安全弁は、P2P(ピア・ツー・ピア)である。

を次から次へと鎖のようにつないで行く構造を持つことから付けられた名である。日本語では「分散型台帳技術」とも呼ばれている。カネの流れを記録した「台帳」を、あちこちに「分散」して保管しておくことが、最重要の約束事である。

台帳は、暗号通貨を取り扱う参加者全員が共有し、保存・管理している。

分散型台帳によって、参加者全員が、誰が、いつ、どのような情報を台帳に書き込んだのかを明確に



破線部分がICチップ

る。ICカードは、磁気カードに比べて偽造が困難であり、本人確認のためのサインの替わりに暗証番号を用いることにより、不正使用の防止効果が高まるというのが謳い文句である。



ブリタニー・カイザー

とを意味する。

鍵(秘密鍵)の2つを利用してデータのやり取りをする。公開鍵と秘密鍵がセットになっている。これを暗号化という。この2つが正確でないとデータは複号できない。暗号通貨の安全性はここでも保たれている。

3番目の安全弁は、データ全体の閲覧に用いられる「ハッシュ値」(hash value)である。システムの

中で誰と誰が取り引きし、その内容はどのようなものなのかをチェックしたい時、これまでは、メールやIC(集積回路)カードなどがよく使われていた。

ICカードとは、単純な磁気カードにICチップを搭載したカードである。

ロシアの軍事的な侵攻に対抗するために、ウクライナに集まった暗号通貨

ロシアの軍事的な侵攻に対抗するために、ウクライナに集まった暗号通貨

ロシアの軍事的な侵攻に対抗するために、ウクライナに集まった暗号通貨

社会資本政策研究会

〒533-0032 大阪市東淀川区淡路三二一六三
電話 (〇六) 四八六二四〇二二
FAX (〇六) 四八六二四〇二三

サンセイ生コンクリート株式会社

代表取締役 稲村 義昭

〒651-1412 兵庫県西宮市山崎町下山口六五
電話 (〇七八) 九〇四一三六九
FAX (〇七八) 九〇四一三〇七

関連団体を支援する会 KU

関西生コン関連
経営者会

提言文芸

~投稿歓迎~

・戦争の大義はいつも「防衛」だ
(憲法窮状)
・選挙区を領地と思う 世襲議員
(与謝無精)

「防衛」と言えは、さしたる反対も起こらず戦争を始められると為政者は思うものです。今、某秘書官の不品行が問題になっていますが、昔の殿様気取りの世襲議員に鉄槌を下すためにも、選挙ではちゃんと考えて投票しましょう。

関連団体を支援するKU会 第3回通常総会を開催

真の関生支部再生をめざして

関連団体を支援するKU会(塩原夫・会長)は5月16日、協同会館アソシエにおいて第3回通常総会を開催した。2020年初頭からのコロナウィルスの感染拡大を受けて、感染防止のためのパージョンなどが施された中での会合が続いていたが、コロナウィルス感染症の5類への移行を受けて、この日は消毒液の設置はあつたものの、パージョンも撤去された中での総会開催となった。

会の冒頭、塩原会長は「真の関生支部を再生して行くという事で、多くの心強い意見をいただき感謝をしています。このKU会をさらに飛躍発展していきたいと考えておりますのでよろしくお願いします」と挨拶した。

関生支部の産業別労働運動を 守り発展させるために

KU会は、2005年2月28日に任意団体として結成された。2007年10月には「特定非営利活動法人 関西友愛会」としてNPO法人格を取得。独立資本と権力が一体となつた関生支部(全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部関生支部)への大弾圧を阻止すると同時に、関生支部の運動財産である産業別労働運動を守り発展させるための活動を全面的に支援してきた。関生支部の運動は、敵の攻撃集団交渉潰し)が厳しくなればなるほど、逆に中小企業との共闘・連帯を促進させ、近畿地区において327社が結集して各地区業界の現状認識を行ない、中小企業が主体となる業界づくりに向けた政策協議の場として、業界全体に大きな注目と影響力を集めていた。しかし、この運動が前



塩原会長

進基調にあつた2020

年10月、関生支部第56回定期大会終了後に、あろうことか関生支部内部で「武委員長(当時)を排除する」というクーデターが組織されて、敵を利用する蜜行が続けられてきた。この内外からの攻撃により、かつてない危機を迎えたKU会は、関生支部代表者との話し合いを行ない、2021年2月、新

KU会の組織力量の強化を

「2022年度活動総括」の中では、前述の実践課題の中でも、「①学習会・研修会の開催」が未開催である事や、「関生支部再生委員会運動への協力活動」「権力弾圧反対の行動参加」においても、期待に應える活動にはなっていない事を指摘。これらの状況を改善し、KU会の設立目的にふさわしい活動を展開するために、KU会の組織力量の強化を図ることが急務であることが確認された。

これを受けた「2023年度活動計画」で、KU会は独立資本・権力、およびその手先となつてくる協同組合および関生

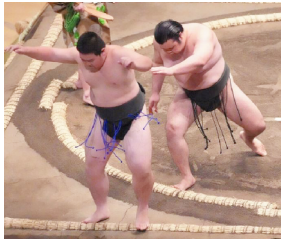
旧の「KU会」を統合する総会を開催、現在の「関連団体を支援するKU会」と名称変更し、今日までその設立目的達成に向けて活動を展開している。

頑張れ尾上部屋 初土俵の春山 序ノ口全勝優勝

大相撲夏場所(東京・両国国技館)では、4場所連続休場明けに復帰した横綱照ノ富士(伊勢ヶ濱部屋)が6場所ぶり8度目の優勝を決めた。また今場所では4人いる関脇(霧馬山、豊昇龍、大栄翔、若元春)がそろって勝ち越しており、七月場所での大関獲りへの期待が膨らむ。

夏場所2日目 春山が初土俵で勝利

初土俵の場所で春山 が全勝で序ノ口優勝



初勝利の春山(右)

夏場所初土俵を踏んだ春山は13日目(5月26日)、黎大丸(式秀部屋)との6戦全勝同士の対決を「方的に寄り切る完勝で序ノ口優勝を飾った。

春山は「うれしいです。負けられないというより、自分の相撲を取ろうとだけ考えていた」と、ホッとした表情で話した。

大相撲尾上部屋は、尾上圭志・親方(元小結濱ノ嶋)が2006年に三保ヶ関部屋から分家独立し、日本相撲協会第54番目の部屋として創設した。

2006年、島興しの二環として鹿児島県徳之島で開催された大相撲では、尾上親方は日本相撲協会巡業部所属の親方として総責任者の大役を担い、大相撲を通じた地域活性化に尽力された。

初めの大相撲の舞台に「相撲は緊張しなかつたけど、アマチュアと違って(不慣れな)所作があつて緊張した」と振り返った。なお同期入門の城間は休場した。



黎大丸(左)を寄り切りで破り序ノ口優勝を決めた春山

五月場所 尾上部屋力士成績

☆印は勝ち越し

番付	四股名	成績
【幕下】		
東34枚目	北天海	☆4勝3敗
【三段目】		
東12枚目	穂嵩	3勝4敗
東21枚目	大海	☆4勝3敗
東57枚目	高馬山	3勝4敗
東70枚目	照寶	2勝5敗
【序二段】		
東4枚目	九鬼王	1勝6敗
西16枚目	玄武丸	☆4勝3敗
西22枚目	坂林	☆5勝2敗
西37枚目	富士の輝	3勝4敗
東52枚目	高倉山	3勝4敗
西52枚目	山名	3勝4敗
【序ノ口】		
西22枚目	春山	☆7勝0敗
東23枚目	城間	全休

※七月場所(名古屋場所)の番付は6月26日に発表